
モンスターハンター ~ Episode Phantom ~

ファントム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター ～Episode Phantom～

【Nコード】

N73740

【作者名】

ファントム

【あらすじ】

狩りと幻想。

二つの世界で生きた男の物語。

亡霊、昔を振り返る。(前書き)

ネタに困って逃げたけど、リメイク兼ねての復活！

東方狩霊幻の続編です。どうか気長に、そして、寛大な心でよんで
いてね！！！！

亡霊、昔を振り返る。

「zzz……」

「起〜き〜て〜よ〜、ファントムさあ〜ん！」

体を激しく揺さぶられ目を覚ます。折角の休日（任意）だということにお構いなしだ。

「うう〜ん…どうした橙？」

「知りたいの！」

「だから何を？」

「ファントムさんの事！」

さっぱり要点が分からない。

「…それは、俺がハンターになってから…って事か？」

激しく顔を縦に振る橙。でも、何でそんな事を知りたいんだと聞くと、「だって家族だもん。家族の事を知りたいって思うのは普通でしょ？」と、顔から火が出そうな答えを返してくる。

（ほんとに橙は純粹だなあ…）

「しょうがないなあ…長くなるけど、それでもいいのか？」

「うん！」

「そうだなあ…あれは、桜の花びらが舞う季節。丁度、今ぐらいの時期だったかなあ……」

亡霊、ココット村を訪れる。

「やっと着いた……ここがココット村かぁ」

俺は村を見回す。桜の花びらが舞い散り、小さいながらも活気に溢れている。

「いい所じゃないか。……と、そうだ。まずは村長に挨拶しに行かないとな」

俺は道具屋の店員に声を掛け、村長はどこにいるのか尋ねる。

「村長なら、その酒場の前で寝てるわよ。……ところであんた、何か買っていかない？」

「いや……何を買えばいいのかわかんないから、また後で寄るよ」
そう断って、酒場の前に向かう。

「zzz……」

「………小っさ……」

目の前で眠りこけている竜人族の爺さんを見て、率直な感想を述べる。ぱつと見、俺の腰よりも低いのだ。

「お……い……村長……」

呼び掛けながら、肩をぽんぽんと叩く。すると、ビクッと体を震わせ目を覚ます村長。

「寝とらん、わしは寝とらんぞい！」

「いやいや、ぐっすり寝てたよ。いびきまでかいて」

「むう……」

冷静にツツコミを入れられ、恥ずかしそうに頭を掻く。これでは、
”英雄ココット”も形無しである。

「うおっほん！………して、何用かのう？」

「ここだったら、正式にハンターになれるって聞いてきたんだけど……」

「おお、ハンター希望じゃったか！ギルドに申請を出すために、
これを書いてくれるかの？」

そう言つて、一枚の紙を渡される。欄には名前、歳、血液型があり、その場で埋めていく。

「シンジ…十八…A、つと……ほい、書けた」

「うむ、これで出しとくからの。これはほんの気持ちじゃ、支度金に使いなさい」

そう言つて村長は、三千をくれた。

「あっちにある家を使って生活してくれて構わんからの。武器も初期じゃが、一通り揃えておる」

「わかった」

「他にわからん事があれば、いつでも聞きにきんさい」

俺は礼を言つて、家に向かった。

「うわー…大分埃っぽいなあ」

閉め切られた戸を開けて中に入る。暫く使われていないようで、少し歩けば埃が舞い散る。

「…こりゃ、先ずは掃除だな」

「あゝ、やつと終わつた」

ベッドの上に、疲れた体を放り投げる。慣れない掃除に手間取ったせいか、窓の外からは夕日が差し込んでいる。

「狩りは明日にするかあ……」

――ぐう。

暴れる腹の虫、その住家をさする。そういえば、朝から何も食べてなかった事を思い出す。

「あまり使いたくはなかったが、しょうがないよなあw」

そう呟いた俺は、酒場に出掛ける事にした。

く大衆酒場く

村長からの依頼とは違う、ハンターズギルドからの依頼を直で請けられるらしく、中は猛者達で溢れ返っていた。

「う！ 酒臭えなあ……」

酒はあまり呑めない自分としては地獄に来たような気分だったが、ここぐらいでしか食事を摂れないので我慢する事にした。

「あら？ 見ない顔ね…新人さん？」

「うん、今日村に来たんだ」

席に座ると、受付嬢がメニューをくれる。

「あたしは受付嬢やつてるカナよ、宜しくね」

「俺はシンジ、よろしく^^」

挨拶を終えて、渡されたメニューに、ざっと目を通す。アプトノスのステーキが美味そうなので、それとおにぎりを注文する。

「バッハハハ！ 黒いイャンクックなんている訳無いだろ！！」

「ん？」

注文した料理の到着を待っていると、後ろの方が騒がしい事に気づく。

「見たんだからしょうがないだろうが！」

「どうせ暗い所で見間違いでもしたんじゃねえのか？」

「ぐ、うう……」

イャンクック……確か、赤い甲殻を持った怪鳥だったか。飛竜の中でも一番小型の種類だった筈だ。

（ま、駆け出しの俺には関係ない話だけどな……）

「お待たせ」

目の前に、料理が並べられる。スパイシーな香りが食欲を一層刺

激してくる。

「おほ、美味そう！ いただきます♪」

「ふゝ、美味かったぁ……」

食欲を満たせた俺は、家のベッドでくつろぐ。

「明日から俺もハンターかぁ……頑張るぞー!!」

自分に気合いを入れて、明日に備える。

どんなモンスター達が待ち受けているのか……楽しみだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7374o/>

モンスターハンター ~Episode Phantom~

2010年11月22日17時39分発行